

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：34437

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00223

研究課題名（和文）大学主導型で、学校美術教育にポップカルチャー等を取り入れる実践を推進する研究

研究課題名（英文）The practical implementation of popular culture topics in art education within the school context

研究代表者

石井 理之（ISHII, Masayuki）

大阪成蹊大学・芸術学部・教授

研究者番号：60824810

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：2023年9月26日から10月1日まで同時代ギャラリー（京都市）において研究の成果物である作品を展示するとともに、日本国内外の「カワイイ」文化についての造詣が深い詩人で哲学者の篠原資明氏を招聘し講演会を実施した。同講演会では、出展学生をはじめとする来場者を交えたディスカッションを行い研究を深めることができた。

2024年2月29日に4年間の取り組みをまとめた科学研究費補助金成果報告書を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大学主導型で、学校美術教育にポップカルチャー等を取り入れる実践を推進する研究成果をもとにして、中・高校生を対象に指導する教員と芸術を専門とする大学教員が協働した「多様な表現方法の活用」を効果的に取り扱う教材を開発した。該当研究は自画像の多様な表現の可能性について研究したものである。

このことは、ポップカルチャーを美術教育に活かし、生徒の興味・関心につながる有意な取り組みとなったと考える。この結果、中学校、高等学校における美術科教育において、生徒を取り巻く文化を取り入れることができ、生徒にとって親和性の高いものとなった。

研究成果の概要（英文）：The exhibition was held at the Dohjidai Gallery (Kyoto, Japan) from 26 September to 1 October 2023, and a lecture was given by invited poet and philosopher Shinohara Motoaki, who has a deep knowledge of 'kawaii' culture in Japan and abroad. The lecture was followed by a discussion with the exhibiting students and other visitors to deepen the research. The lecture was followed by a discussion with exhibiting students and other visitors to deepen the research. The report on the results of the scientific research grant was published on 29 February 2024, summarising the efforts made over the past four years.

研究分野：美術教育、絵画、ビジュアルカルチャー

キーワード：中・高校教員と大学教員の協働 ポップカルチャー 多様な表現方法の活用 カワイイ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

基盤研究(C) (一般). 課題番号: 20K00223

大学主導型で、学校美術教育にポップカルチャー等を取り入れる実践を推進する研究

1. 研究開始当初の背景

中学校・高等学校における美術科題材は学習指導要領に則って実施されているが、新たな学習指導要領が示されても、それを実際に学校現場において題材に取り入れられていない状況も見られた。具体的には、中学校学習指導要領(平成29年告示)美術科の内容において「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2(3)で示された映像メディア、漫画やイラストレーション、日本及び諸外国の美術の作品などにおける多様な表現方法を工夫して幅広く表現活動が行えるようにする。とあるが、現実的にはその広がりを見るのが難しい状況がある。

また、大学で遂行されている美術教育研究・教材研究の成果が、中学校・高等学校における美術科教育の実践に必ずしも有為に活かされていない現状を鑑み、これまでの研究によって高い教育効果が見込まれている各種の表現方法を教育現場において活用し、理論と実践の両面での美術教育の拡充を実現することが必要とされていた。

2. 研究の目的

中・高校生を対象に指導する教員と芸術を専門とする大学教員が連携し、「多様な表現方法の活用」を効果的に取り扱う方策を具体的に立案し、その効果を検証すること、その研究成果を効率的に現場と共有するアーカイブと議論プラットフォームを構築することである。

については、ファインアートに限定するのではなく、生徒の身近にあり文化を取り入れ生徒が取り組みやすい漫画やイラストレーションを美術科題材に取り入れ表現の多様な表現方法を検討することである。

については、得た多様な表現方法の有用性を示す場を設定し、対面、web、アーカイブ等を活用して議論を深めていくことである。

3. 研究の方法

美術教材研究会を大学が主導して理論面での研究を牽引しつつ、高等学校、中学校の美術科教員と協働しながら全体のプロジェクトを進めていった。

大阪成蹊大学美術教材研究会において教材開発を目的とした研究として、中学校・高等学校の美術科教員が多数参加する実技研究会を3回開催した。その結果、こうした研究に対する現場ニーズの高さと今後の発展可能性の有望さを実感した。また、継続して教材を開発する研究の必要性についても確認することが出来た。

充実した教材を開発するために、この間継続して「自画像の多様な表現」に取り組んだ。具体的には、石井が実施した「基礎造形演習VD」、「造形演習1 絵画」の授業において一つの題材としてポップカルチャーを有意に生かすための試みを行い、自画像の制作プロセス及び成果物である作品について検討した。しかしながらこれらの科目の学生のみでは、専攻が限られているため、より幅広く技術的にも高度な作品を必要とすることから、研究者によって推薦された学生に参考作品制作を依頼した。その際に技術的な高さは必要ではあるが、所謂「上手な絵」「達者な絵」ということをその選抜基準とするのではなく、選抜にあたってはポップな感覚を持ち表現がユニークであることを重視した。

4. 研究成果

コロナ禍での研究ということもあり、研究当初は対面での対話が難しい状況にあり、「クラスルーム」等を活用した遠隔での対話が必要な状況があった。言葉のやり取りが難しい状況ではあったが、学生と対話する中でPOPをなかなか概念化できない様子が見受けられた。その際に学生の一部からPOPを「かわいい」という言葉に置き換えるとイメージしやすいという意見があった。

この「かわいい」という言葉は若年層のみならず幅広い世代で使われているが、その範囲は広く定義することが難しいものである。しかしこの「かわいい」という感覚を取り入れることは、生徒を取り巻く視覚環境を考えると蓋然性の高いものである。あわせて、現在注目されているノスタルジックな要素を現代の感覚で再構築した「ネオレトロ」ないし「ニューレトロ」や、「シティポップ」に代表される80年代イラストのテイストについても注視することが肝要である。さらに、漫画、イラストレーション、アニメーション、ゲームなどの要素を否定する

ことなく作品のスタイルとして学校美術教育に取り入れることは、「うまさを必要としない」、個々の容姿に関する、あるいは作品を描くことに関する「コンプレックス」を克服し、生徒が本来持つ力をエンパワーするための一つの方法であると確認できた。

この結果から、今後も、継続してポップカルチャーを取り入れた題材の研究を推進していくが有意義なものであると考える。その中で現在世界的にも注目されている、かわいい(KAWAII)の感覚を取り入れ、生徒を取り巻く視覚環境を考慮した現代的な感覚を持ち豊かで多様な美術科の授業題材を構想し、新しい美術科教材の開発を推進していくことが本研究の成果であると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石井 理之、津田 やよい、唐仁原 希、加藤 隆文	4. 巻 7
2. 論文標題 学校美術教育（絵画領域）にポップカルチャーを取り入れた題材を実践する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪成蹊大学紀要	6. 最初と最後の頁 119-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 隆文 (KATOU Takafumi) (60799980)	大阪成蹊大学・芸術学部・講師 (34437)	
研究分担者	津田 やよい (TSUDA Yayoi) (80557348)	大阪成蹊大学・芸術学部・准教授 (34437)	
研究分担者	唐仁原 希 (TOUJINBARA Nozomi) (80824440)	京都市立芸術大学・美術学部/美術研究科・講師 (34437)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------